

中央大学文学部考古学研究室 2016 年度活動報告

上黒岩第 2 岩陰遺跡 滝坂遺跡 大日野原遺跡

2016 年度発掘調査の概要

2017 年 3 月 1 日

中央大学文学部日本史専攻考古学ゼミ 小林謙一

上黒岩第2岩陰遺跡

愛媛県上浮穴郡久万高原町に位置する国指定史跡上黒岩岩陰遺跡の周辺調査として、本年も久万高原町教育委員会とともに上黒岩第2岩陰遺跡の発掘調査をおこなった。

昨年度確認し1号人骨とした座位の人骨が埋葬されていた墓壇周辺を調査し、新たに2・3号人骨を検出した。東京大学総合博物館に委託し、人骨の年代測定をおこなった結果、1・3号人骨は中世末～近世初頭頃、2号人骨は縄紋早期後葉頃と判明した。



岩陰全景



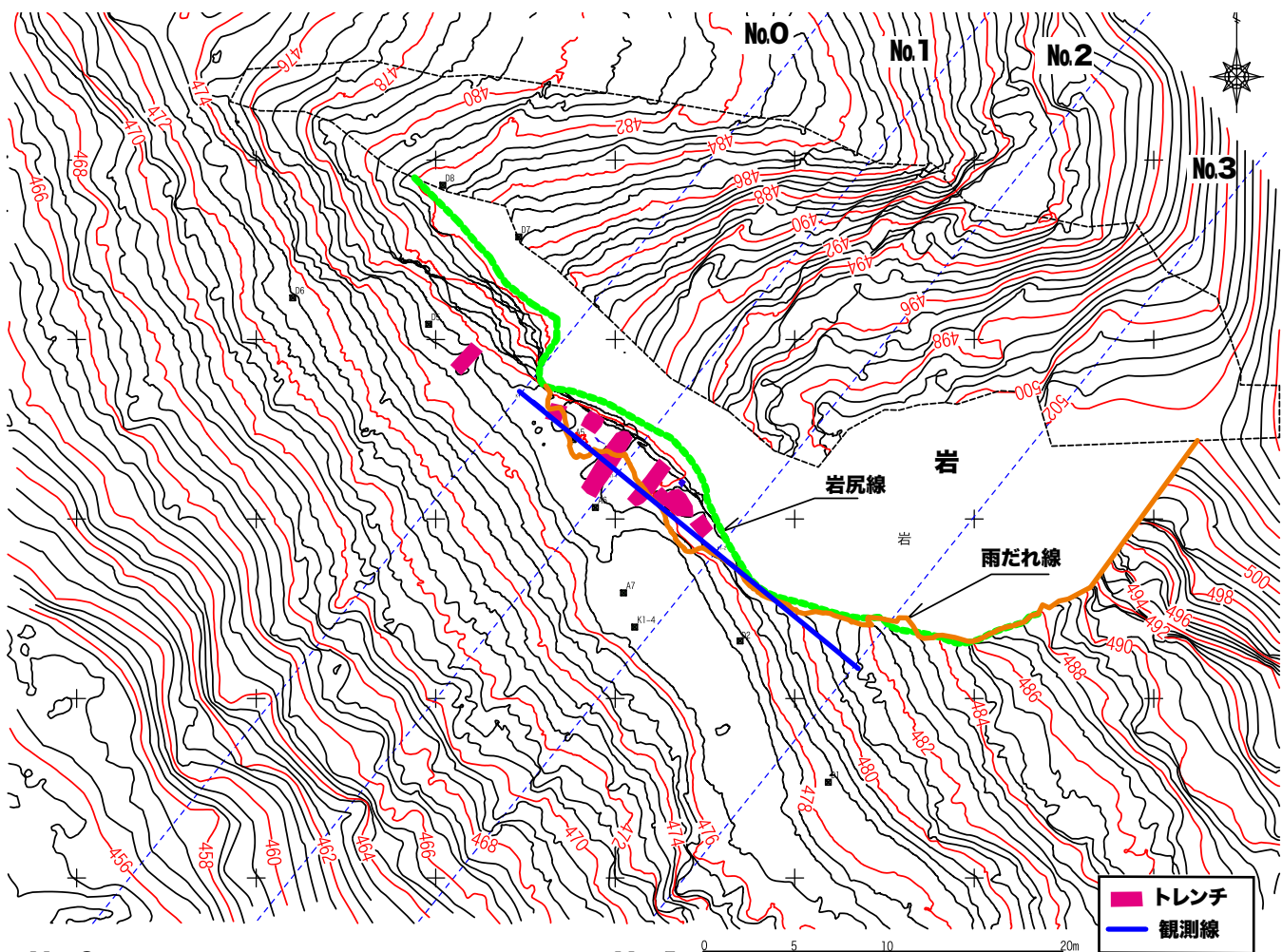
測量のようす



土壌サンプリング

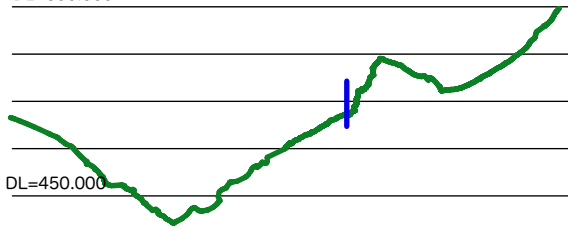


調査風景



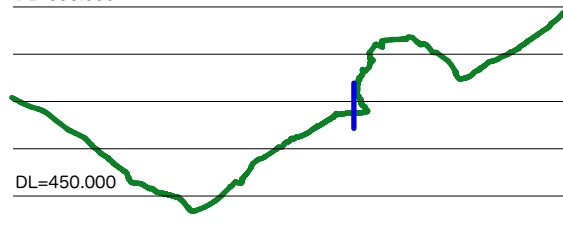
No.0

DL=500.000



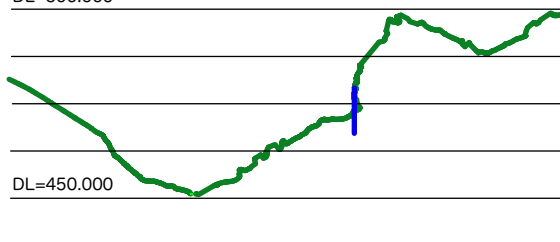
No.1

DL=500.000



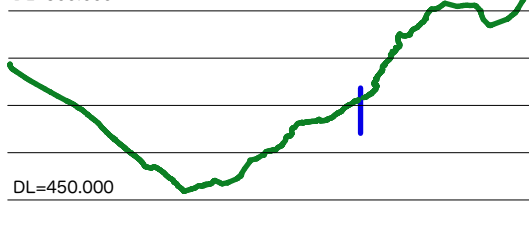
No.2

DL=500.000



No.3

DL=500.000



岩陰の等高線図と垂直断面（久万高原町教育委員会提供）

調査参加者：小林謙一、西本志保子、カーリン・レーポリ、金子悠人（中央大学）、及川穰、田原弘章、梶浦由佳（島根大学）、奈良貴史、澤田純明、萩原康雄、佐伯史子（新潟福祉医療大学）、大野朝日（金沢大学）、西村曜子（ペンシルバニア大学）、望月彬、栗野翔太（奈良大学）、畠沢大地、猪上高也（愛媛大学）、岡村正子・平賀俊明（一般）、竹口和博（地権者）、日野和也、遠部慎、和田雅志（久万高原町教育委員会）、伊賀上賢司、岡林福男、久万川恵利子、久万川竜星、久万川重広、土居範孝、山口早苗、松岡八重子、松岡香（故人）（久万高原町）、田村有加（プティクリフ）

来跡者：長井數秋、西岡若水（愛媛考古学研究所）、幸泉満夫（愛媛大学）、沖野新一（伊予市）、前園美知雄（奈良県立美術大学）、柴田昌児（愛媛大学埋蔵文化財センター）、兵頭勲（愛媛県立歴史文化博物館）、松本安紀彦（愛南町教育委員会）、米田穰（東京大学）、石丸常（久万高原郷土会）、久保正和（久万高原町）、忠政啓文（ウォーキング講師）



3号人骨出土状況（4トレンチ）



1号人骨陶磁器出土状況



2号人骨出土状況（3トレンチ）



1号人骨（土壌墓）調査状況

東京大学総合博物館米田穰による AMS 炭素 14 年代測定の結果、以下の年代が判明した。

1号人骨	-17.31 ± 0.43 ‰ $\delta^{13}\text{C}$ (AMS)	247 ± 27 BP ^{14}C (cal BP)
較正年代	426 cal BP(7.8%)392 cal BP,320 cal BP(60.2%)273 cal BP,185 cal BP(23.7%)150 cal BP,10 cal BP(3.6%)-5 cal BP	
2号人骨	-21.9±0.4‰ $\delta^{13}\text{C}$ (AMS)	7729±27 BP ^{14}C (cal BP)
較正年代	8578cal BP(2.4%)8569cal BP,8563cal BP(93.0%)8430cal BP	
3号人骨	-20.2±0.4‰ $\delta^{13}\text{C}$ (AMS)	323±18 BPBP ^{14}C (cal BP)
較正年代	458cal BP(76.4%)348cal BP,335cal BP(19.0%)308cal BP	

なお、1号人骨については IRMS による安定同位体比を分析した結果、 $\delta^{13}\text{C}$ は -16.7‰、 $\delta^{15}\text{N}$ は 6.6‰、C/N 比 3.3 であり、雑穀類などを含む C_4 植物を多く摂取していた可能性が指摘されている。



出土遺物（縄紋時代石鏃・土器）



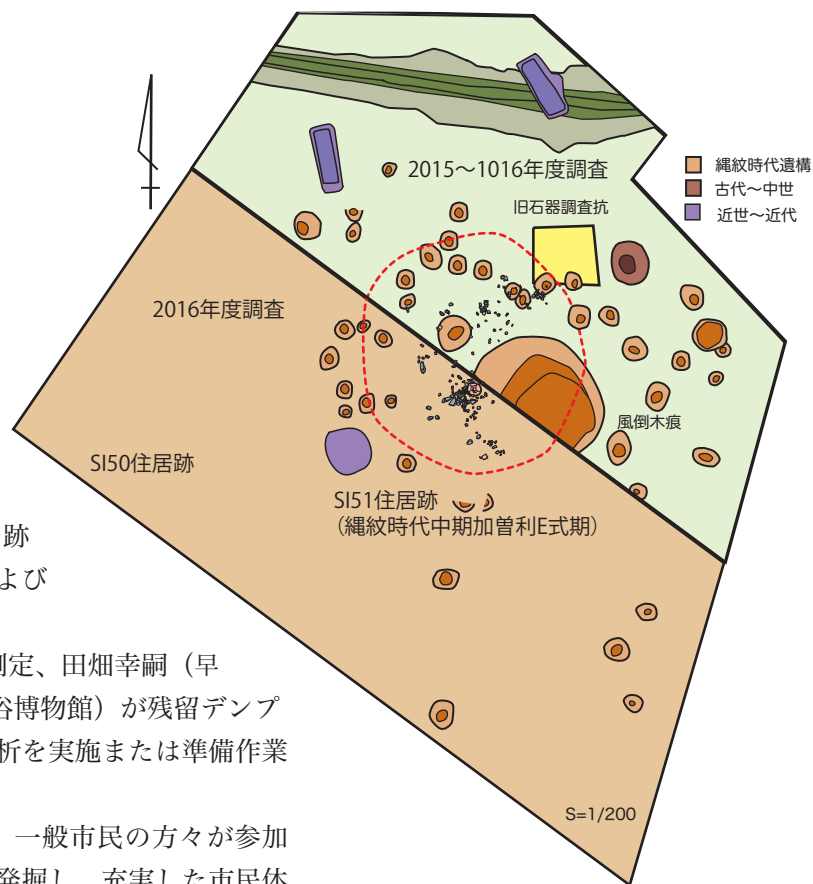
地元の人々との交流を兼ねた昼食タイム

滝坂遺跡

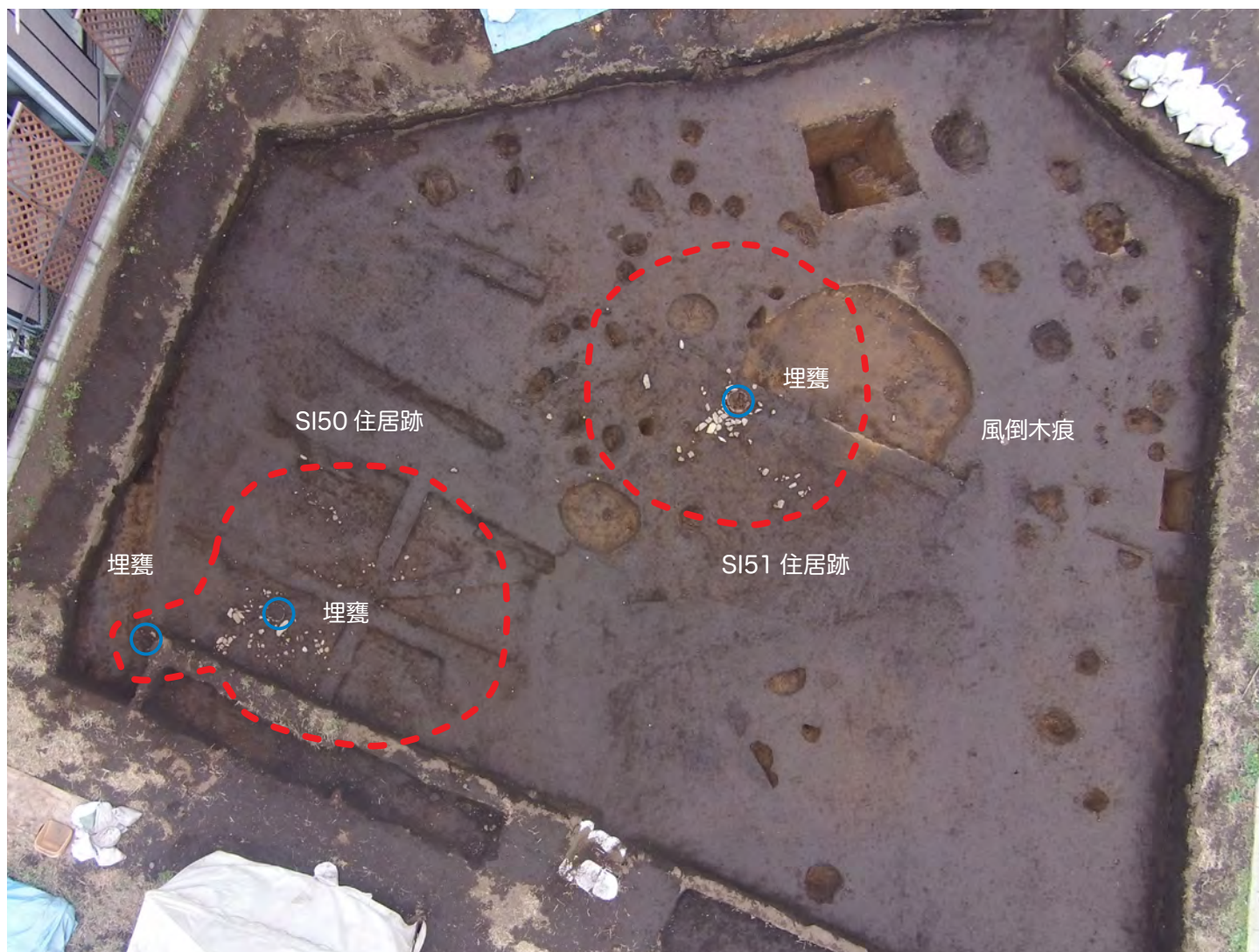
3年目となる2016年度の調査として、三鷹市教育委員会と共同で、滝坂遺跡の発掘調査および三鷹市教育委員会主催の市民体験発掘をおこなった。本年度は、昨年度調査区の南東部を拡張した。「遺物集中」とした南側には配石を伴う埋甕が検出され、SI51住居跡とした。明確な焼土を伴う炉が検出されていないが、来年度には敷石下のピットを調査することにより、柄鏡形となるであろう住居形態があきらかになると考えている。また、調査区南西より埋甕2基と配石を確認しSI50住居跡とした。この埋甕は、柄鏡形敷石住居の入口部分および柄部と主体部との接合部分にあたる可能性が高い。

委託として、菅頭明日香（青山学院大学）が磁気測定、田畑幸嗣（早稲田大学）がドローン空撮、渋谷綾子（国立歴史民俗博物館）が残留デンプン分析、下岡順直（立正大学）がルミネッセンス分析を実施または準備作業をおこなった。

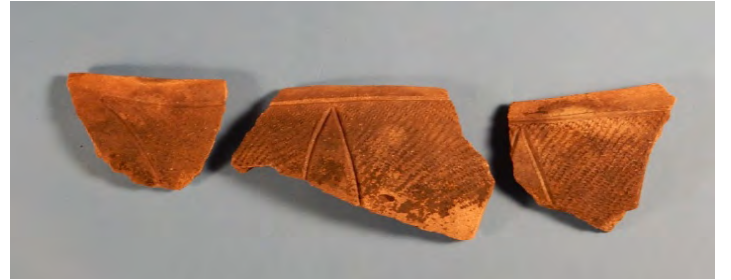
市民発掘は、2日間開催され、72名の親子連れ、一般市民の方々が参加した。縄紋土器や石器を掘り出したり、近世の溝を発掘し、充実した市民体験発掘となった。



遺構全体図



調査区全景（ドローンによる空撮）



SI50 住居跡埋甕出土状況
出土した埋甕（注口土器）、埋甕内の別個体破片
ともに中期後半加曽利E式土器



SI50 住居跡確認面調査風景



調査風景



市民体験発掘



残存デンプン分析対象石器の調査
渋谷綾子（国立歴史民俗博物館）



磁気測定状況
菅頭明日香（青山学院大学）



ドローン空撮の様子
田畑幸嗣、ナワビ矢麻（早稲田大学）

2016 年参加者

小林謙一、西本志保子、カーリン・レーボリ、小澤政彦、金城奈緒子、網谷愛美、荒木敬郎、幸田京、武市久瑠実、森若菜、葛根田純佳、村上友里菜、飯森拓也、遠藤菜月、村主紗優里、草野晴菜、大銃地駿佑、岡山真子、河瀬瞳、金子悠人、青柳克弥、三浦佳記、後藤納名美、高橋由莉、伏見安美、鈴木莉彩、沖田朔、山本健太郎、西川祐立、鈴木祐太郎、岡庭由佳、森田彩花、日置優香子、福島怜、岡本多久実、横地泰平、伊藤澄香、鈴木清夏、三上能、綾女敬伍、貝沼優佳、奈良部大樹、間所千里、黒田泰平、鈴木由佳、藤原佑貴、赤羽洋介、佐藤さくら（中央大学）、井上早季、佐藤亮太、鈴木宏和、岩見拓、小林昌司（早稲田大学）、小山侑里子、鈴木司、田中健、中村水祐、畑美由紀、野中涼、本間修介（駒澤大学）、佐藤可也、小林尚子（一般）、下原裕司、石井則孝、沼上省一、斉藤圭子（三鷹市）

協力者：山崎繁（地権者）、（三鷹市）

大日野原遺跡 整理状況

大日野原遺跡の2016年度活動は、3月に発掘調査を予定しているほか、整理作業を通年で実施した。出土遺物は、洗浄・注記・計測・実測・拓本などをおこない、遺構については図面整理などをおこなった。

また、2015年度以前の調査資料の中に、内面に付着物が付着する土器が認められたので、山形大学に測定を委託しAMS炭素14年代測定をおこなった。写真左に示す中期曽利III式土器口縁部破片内面付着物（試料番号KN-SOH-11280）と、堀之内2式土器口縁部破片内面付着物（試料番号KNSOH-12966）である。結果は下記の通りである。

試料番号	機関番号	$\delta^{13}\text{C}(\text{AMS})$	^{14}C BP
KNSOH-11280	YU-4535	-24.94±0.44	4194±20
較正年代 cal BC	2889BC (24.8%) 2853BC	2813BC (56.8%) 2744BC	2726BC (13.9%) 2696BC
KNSOH-12966	YU-4573	-21.10±0.69	3737±23
較正年代	2205BC (64.0%) 2115BC	2100BC (31.4%) 2038BC	



KNSOH-11280

年代測定土器片



石錘（縄文後期）



KNSOH-12966

接合した土器（後期堀之内式）



2016 年度 調査参加者

報告書抄録

ふりがな	かみくろいわだいにいわかげいせき たきさかいせき おびのつばらいせき							
書名	上黒岩第2岩陰遺跡 滝坂遺跡 大日野原遺跡							
副書名	2016 年度発掘調査の概要							
シリーズ名	中央大学文学部考古学研究室2016年度活動報告							
シリーズ番号								
著者名	小林謙一・小林尚子							
編集機関	中央大学文学部日本史学専攻考古学ゼミ 小林謙一（編集 小林尚子）							
所在地	東京都八王子市東中野 742-1							
発行年月日	2017年3月1日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
かみくろいわ 上黒岩第2岩陰遺跡	えひめけんくまこうげんちようかみくろいわ 愛媛県久万高原町上黒岩1206-1			33° 36' 48"	132° 57' 30"	2016.8.22-8.29	12.3㎡	学術調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上黒岩第2岩陰遺跡	洞穴遺跡	縄紋時代 中～近世	埋葬遺構		縄紋土器 縄紋石器 陶磁器		整理作業中	
ふりがな	ふりがな	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	三鷹市№43						
たきさか 滝坂遺跡 M16-101	みたかしなかはら 三鷹市中原 2-26-14外		35° 39' 57"	139° 34' 28"	2016.10.28-11.12	209.2㎡	学術調査	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
滝坂遺跡	集落跡	縄紋時代 近世 近代	住居跡 ビット 溝		縄紋土器 縄紋石器		整理作業中	

中央大学文学部考古学研究室 2016 年度活動報告

上黒岩第2岩陰遺跡・滝坂遺跡・大日野原遺跡

2016 年度発掘調査の概要

印刷・発行日 2017 年 3 月 1 日

編集・発行 中央大学文学部日本史学専攻考古学ゼミ
小林謙一

〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1